

低温・少雨に対する農作物の管理について

平成 29 年 6 月 1 6 日

農業技術課

1 水 稲

- (1) 移植まもない水田では、浅水管理等で活着と初期生育を促進し、必要茎数確保に努める。(参考：農業試験場原村試験地(標高 1,017m)の 5 月 25 日移植での茎数は、平年比 60%程度となっている。)
- (2) かんがい水温が低い地域では、温水ホースによる水口の変更、日中止水かんがい等により、田面水温を高め生育促進に努める。

2 果 樹

- (1) 低温、乾燥に耐える健全な樹づくりのために、栽培の基本を守り、日常の管理を徹底する。りんご、なし、ももの肥大不良、有核巨峰の結実不良などに注意が必要である。
乾燥状態が続く場合は、適切にかん水を実施する。
- (2) 果実肥大を確保するため、適正着果に努める。
- (3) 病虫害の異常発生に備え、発生予察と適期防除に努める。
- (4) 夏期の枝梢管理を徹底し、充実を図る。
- (5) 適期収穫により品質の向上、保持を図る。

3 野菜および花き

- (1) 低温干ばつ傾向では、野菜、花きの生育遅延や品質低下を招きやすい。生育適温を確保するため、雨よけ栽培では朝夕の側面被覆の開閉を励行し、露地栽培では、トンネル被覆等(マルチ栽培)の実施により、生育促進を図るとともに、適切なかん水の実施により、土壤水分を確保する。また、アブラムシなど害虫の早期発見、防除に努め、被害を防止する。
- (2) 果菜類は、低温により着果が阻害されるので、着果促進のため、人工交配、植物生長調節剤処理等の作業を確実に行う。また、草勢を維持するため、適正着果に努める。
- (3) 花きの施設栽培では、開口部の開閉をこまめに行い、適温の維持に努め、計画出荷を行う。露地品目で乾燥が続いた場合、可能なほ場では、通路かん水を実施する。
- (4) 播種後、発芽後及び定植直後のものは、ビニール、べたがけ資材等の被覆を実施し、地温の上昇を図るとともに、適切なかん水の実施により土壤水分を確保する。
- (5) 生育初期における窒素肥料の多用を避ける等、健全な生育管理に努める。
- (6) 葉面散布等の追肥により、草勢の回復を図るとともに、石灰欠乏症が発生しやすい品目では、カルシウム含有資材の花房散布あるいは葉面散布を行う。